

府中市立湯が丘病院経営強化プラン令和6年度実績評価

◎・・・年度計画を上回って実施、

○・・・年度計画を順調に実施

△・・・年度計画を十分に実施できていない

×・・・年度計画を大幅に下回っている

1 経営指標にかかる数値目標

	評 価	
自己評価	① 医業収支比率 ×	入院・外来患者数の減少を要因とする医業収益の減少に加えて、人件費や物価上昇による医業費用の増加といった傾向が継続している。目標値は達成しているが、今後も本業である医業活動による収益性向上を図る施策を行っていく。
	② 経常収支比率 ○	他会計負担金の大幅な増加に伴い、目標値を超える状況となり、黒字決算に転じている。一方で、医業収支比率は悪化状況にあることから、病床利用率の改善等により収益性を向上させることで、他会計負担金依存度を低減し、持続可能な運営を行っていく。
	③ 材料費対医業収益比率 ○	材料費の物価上昇やコロナ感染症治療のための高額薬品の使用増に伴い、目標値は達成しているが、昨年度実績より悪化している。材料・薬品等の効率的な調達や適性管理に向けての検討を行う。
	④ 経費対医業収益比率 ▲	物価上昇の影響により光熱水費、燃料費、賃借料などが増加したことに伴い、目標値を達成できていない。病院全体で削減に向け取り組むべき課題であるため、意識改革による削減協力体制を築き、実現性を高める。

	⑤ 給与費対医業収益比率 ×	人件費上昇の影響を受け、前年度実績より悪化し目標値を達成できていない。今後も人件費の増加傾向は継続することが予測される。入院患者数の減少に伴い、看護職員等の職員配置適正化を図ることで抑制に努める。
	⑥ 1日あたり入院患者数 ×	医療圏域の人口減少、薬剤による治療効果の向上、病院の入院施設の老朽化などにより年々患者数が減少しているため、いずれも目標値を達成できていない。精神保健活動やホームページの充実を図りPRを行うとともに、患者の快適性向上に寄与する環境整備を行うことで選ばれる病院となるよう努力し、入院の入口となる外来患者を増やすことで、1日あたりの外来患者数ひいては1日あたりの入院患者数の増加によって、病床利用率の改善に繋げる。
	⑦ 1日あたり外来患者数 ×	
	⑧ 病床利用率 ×	

(1) 収支改善指標

・ 医業収支比率（修正医業収支比率）

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医業収支比率	目標値		57.9	73.2	74.4	75.5
（修正医業収支比率）%	実績	69.6	64.9	-	-	-

・ 経常収支比率

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
経常収支比率 %	目標値		93.7	100.0	100.0	100.0
	実績	89.6	100.9	-	-	-

【市の評価】

他会計負担金を加えた経常収支比率は100%を超え、損益上は黒字となったが、他会計負担金を除いた本業の修正医業収支比率は前年度より4.7%悪化し、目標値を上回ったとはいえ、本業による収益性が低下し、他会計負担金に頼る経営状況となっている。

翌年度の修正医業収支比率の目標値は73.2と令和6年度より高い目標となっているため、新たな医業収益確保策を早急に検討し、実行に移す必要がある。

(2) 費用削減指標

- 材料費の対医業収益比率

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
材料費の対医業収益比率 %	目標値		5.6	5.6	5.6	5.6
	実績	4.6	5.3	-	-	-

- 経費の対医業収益比率

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
経費の対医業収益比率 %	目標値		23.8	59.2	25.7	25.7
	実績	24.2	26.2	-	-	-

- 給与費の対医業収益比率

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
給与費の対医業収益比率 %	目標値		100.6	98.9	97.2	95.5
	実績	107.9	114.2	-	-	-

【市の評価】

経費対医業収益比率は前年度比 2.0%増、目標値に対しても 2.4%高い結果となり、昨今の光熱水費や物価高騰の影響を直接受ける形となったが、一方で、対医業収益比率であるため収益減少の影響も考慮する必要がある。

給与費対医業収益比率は、前年度比 6.3%と大幅に上昇、目標値に対しても 13.6%も高い結果となった。給与費対医業収益比率が 100%を超えたということは、病院事業本業の収益よりも職員給与費の方が高いという結果で、今後は 100%を切る計画的な努力が必要と考える。国による人件費上昇圧力による影響もあるとはいえ、人件費という投資に対する収益性を考慮していかなければならない。

(3) 収入確保指標

- 1 日当たり入院患者数

		令和 5 年度	令和 6 年度		令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
			(～ 9 月)	(10 月～)			
1 日当たり入院患者数 人	目標値		162		162	162	162
	実 績	161	154		－	－	－

- 1 日当たり外来患者数

		令和 5 年度	令和 6 年度		令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
			(～ 9 月)	(10 月～)			
1 日当たり外来患者数 人	目標値		44		46	48	50
	実 績	37	35		－	－	－

- ・ 病床利用率

		令和 5 年度	令和 6 年度		令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
			(～ 9 月)	(10 月～)			
病床利用率	目標値		65.3		90.0	90.0	90.0
	実 績	52.3	50.08		－	－	－

《参考》稼働病床数

		令和 5 年度	令和 6 年度		令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
			(～ 9 月)	(10 月～)			
《稼働病床数》	目標値		248	180	180	180	180
	実 績	248	248		－	－	－

【市の評価】

入院、外来患者数の減少の主な要因は周辺人口の減少と施設の老朽化によるものと考えられるが、更なる患者数確保に対する努力が見えない。施設の老朽化への対策については市の責任も大であるが、病院における努力がなければこのまま患者数は減り続け、病床利用率も低下する一方である。

(4) 経営安定性指標

- ・ 医師数

		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
医師数	目標値		6	6	6	6
	実 績	6	6	－	－	－

- ・ 薬剤師数

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
薬剤師数	目標値		2	2	2	2
	実績	2	1	－	－	－

【市の評価】

医師数の確保ができている点は病院の努力によるものと評価している。一方薬剤師は、地方独立行政法人府中市病院機構から薬剤師の派遣を受けてはいるものの法定数を下回っており、引き続き確保に努める必要がある。

2 医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標

	評 価	
自己評価	(1) 医療機能・医療の質、連携の強化等に係るもの	
	・医師の診療支援件数 △	昨年度と同等の診療支援件数であり、週2回の医療機関への診療支援と月1回の障害者支援施設を行っている。目標値を達成するため診療支援回数を増やしていく必要がある。目標値の設定に誤りがあり再設定の予定。
	・精神保健活動件数 ◎	他市町からの依頼が増加したため、目標値をクリアしている。引き続き、臨床心理士による講演活動等を行うとともに、近隣市町へのPRも行っていく。
	・訪問看護件数 △	退職による人員不足のため、訪問看護に出向くことが困難な状況であり目標値は達成していない。しかし、年度中途での人事異動により看護師を追加で1名配置したこと、また、事務補助者を1名採用し体制を充実させたため、来年度以降は目標値以上の訪問看護を実施可能。
	・作業療法件数 △	前年度実績よりは増加したものの、入院患者の高齢化により、作業療法へ参加できる人数が減少しているため、目標値を達成できていない。
	・認知症初期集中支援チーム 訪問件数 △	目標値は未達成だが、前年度よりも実績は増加しており、着実に件数を増加させている。今後も目標値達成へ向け、市と連携して行っていく。
	(2) その他	
	・研修医受入人数 ◎	当院への研修依頼が例年よりも多かったため、目標値を達成している。引き続き、研修場所として当院が選ばれるよう努力していく。
	・看護実習生等受入件数 △	県立三次看護学校、福山平成大学の学生による実習であり、今後も学生にとって魅力的な実習の場として努力していく。

(1) 医療機能・医療の質、連携の強化等に係るもの

・ 医師の診療支援件数

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
医師の診療支援件数 件	目標値		402	407	412	417
	実績	106	103	－	－	－

・ 精神保健活動件数

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
精神保健活動件数 件	目標値		23	30	37	44
	実績	38	28	－	－	－

・ 訪問看護件数

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
訪問看護件数 件	目標値		247	250	253	256
	実績	237	227	－	－	－

・ 作業療法件数

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
作業療法件数 件	目標値		247	250	253	253
	実績	189	200	－	－	－

- ・ 認知症初期集中支援チーム訪問件数

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
認知症初期集中支援チーム訪問件数 件	目標値		11	19	27	35
	実績	6(回数)	9(回数)	－	－	－

【市の評価】

『医療機能・医療の質、連携の強化等に係るもの』については、精神保健活動件数及び認知症初期集中支援チーム訪問件数を除き目標値を下回った。特に医師の診療支援件数が大きく目標を下回っており、まずはこの点が今後の改善点と考える。

(2) その他

- ・ 研修医受入人数

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
研修医受入人数 人	目標値		2	3	3	3
	実績	1	3	－	－	－

- ・ 看護実習生等受入人数

		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
看護実習生等受入人数 人	目標値		51	52	53	54
	実績	51	48	－	－	－

【市の評価】

研修医受入人数は、前年度実績、目標値を上回った。派遣元病院への研修医の配置状況にもよるが、引き続き受入れには前向きに取り組んでもらえればと考えている。

3 収支計画と決算額の比較

(1) 収益的収支

(単位: 百万円、%)

区 分		年 度	令和 5 年度	令和 6 年度		
			決算額	計画値	決算額	差
収 入	1.	医業収益 a	876	895	848	▲47
	(1)	料金収入	861	875	834	▲41
	(2)	その他	15	20	14	▲6
		うち他会計負担金	0	0	0	0
	2.	医業外収益	277	559	500	▲59
	(1)	他会計負担金・補助金	256	540	478	▲62
	(2)	国(県)補助金	0	0	1	1
	(3)	長期前受金戻入	13	11	12	1
	(4)	その他	8	8	9	1
		経常収益 (A)	1,153	1,454	1348	▲106
支 出	1.	医業費用 b	1,258	1,545	1,306	▲239
	(1)	職員給与費 c	946	900	968	68
	(2)	材料費	40	50	44	▲6
	(3)	経費	212	530	222	▲308
	(4)	減価償却費	58	65	70	5

	(5) その他		2	0	2	2
	2. 医業外費用		29	7	29	22
	(1) 支払利息		0	1	1	0
	(2) その他		29	6	28	22
	経常費用 (B)		1,287	1,552	1,335	▲217
経 常 損 益 (A)－(B)		(C)	▲ 134	▲ 98	13	111
特 別 損 益	1. 特別利益 (D)		0	0	0	0
	2. 特別損失 (E)		0	0	0	0
	特 別 損 益 (D)－(E)	(F)	0	0	0	0
純損益 (C)+(F)			▲ 134	▲ 98	13	111
累積欠損金 (G)			197	271	184	▲87
不 良 債 務	流動資産 (ア)		2,081	2,006	2,092	86
	流動負債 (イ)		171	130	217	87
	うち一時借入金		0	0	0	0
	翌年度繰越財源 (ウ)		0	0	0	0
	当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (エ)		0	0	0	0
	差引 不良債務 {(イ)－(エ)}－{(ア)－(ウ)} (オ)		▲ 1,910	▲ 1,876	▲ 1,875	1
経常収支比率		$\frac{(A)}{(B)} \times 100$	90.0	93.7	100.0	6.3
不良債務比率 (オ)			▲ 218.0	▲ 209.6	▲ 221.7	▲ 12.1

	$\frac{a}{b} \times 100$				
医業収支比率	$\frac{a}{b} \times 100$	69.6	57.9	64.9	7.0
職員給与費対医業収益比率	$\frac{c}{a} \times 100$	107.9	100.6	114.2	13.6
地方財政法施行令第15条第1項 により算定した資金の不足額	(H)	－	▲ 1,876	－	▲ 1,876
資金不足比率	$\frac{(H)}{a} \times 100$	－	▲ 209.6	－	▲ 209.6
病床利用率		52.3	66.3	50.1	▲16.2

【市の評価】

収益的収支については、前年度の134百万円の赤字から147百万円改善し、13百万円の黒字転換となった。

計画値の98百万円の赤字見込みからの黒字転換でもあったが、計画値は、令和6年度秋に予定されていた未利用病棟や体育館、研修棟、看護師用宿舎などの解体に伴う固定資産除却費56百万円を費用に見込んでいたが、市の都合により解体工事を延期したため固定資産除却費が費用化されなかった点が収支へも影響した。

結果から言えば、前年度から料金収入は減少し、職員給与費、経費などは増加し、収益的収支は内容的には悪化しているため、先述の費用削減、収入確保の努力に努められたい。

(2) 資本的収支

(単位:百万円、%)

区 分		年 度	令和 5 年度	令和 6 年度		
			決算額	計画値	決算額	差
収 入	1.	企業債	42	25	89	64
	2.	他会計出資金	46	30	75	45
	3.	他会計負担金	1	2	0	▲2
	4.	他会計借入金	0	0	0	0
	5.	他会計補助金	0	0	0	0
	6.	国(県)補助金	1	3	3	0
	7.	その他	0	35	35	0
		収入計 (a)	90	95	202	107
		うち翌年度へ繰り越される 支出の財源充当額 (b)	0	0	0	0
		前年度許可債で当年度借入分 (c)	0	75	0	▲75
支 出		純計(a)－[(b)＋(c)] (A)	90	20	202	182
	1.	建設改良費	109	51	165	114
	2.	企業債償還金	9	10	10	0
	3.	他会計長期借入金返還金	0	0	0	0
	4.	その他	0	0	100	100
		支出計 (B)	118	61	275	214
差 引 不 足 額 (B)－(A) (C)			28	41	73	32

補 て ん 財 源	1. 損益勘定留保資金	28	41	73	32
	2. 利益剰余金処分額	0	0	0	0
	3. 繰越工事資金	0	0	0	0
	4. その他	0	0	0	0
	計 (D)	28	41	73	32
補てん財源不足額 (C)－(D) (E)		0	0	0	0
当年度同意等債で未借入 又は未発行の額 (F)		0	0	0	0
実質財源不足額 (E)－(F)		0	0	0	0

【市の評価】

資本的収支については病院施設建替えに伴う設計費用が令和5年度から繰り越されたことが影響したが、補填財源は十分保有しており、また現年の収益的収支がプラスであったため影響はない。病院施設建替えの見通しが立っていないため手探り状態での投資となるが、引き続き計画的な投資を望むものである。

また、令和6年度は昨今の経済状況に鑑み初めて有価証券への投資を行ったが、引き続き経済状況を見極めながら病院事業の資金確保につながる取組に努めてもらいたい。

(3) 一般会計等からの繰入金の見通し

(単位:百万円)

	令和 5 年度	計画値	令和 6 年度	差
	決算額		決算額	
収益的収支	256	540	455	▲85
資本的収支	48	32	75	43
合 計	(0) 304	(0) 572	(0) 530	(0) ▲42

※ () 内はうち基準外繰入金額

【市の評価】

他会計負担金（一般会計等からの繰入金）は、経営状況の悪化に伴い大幅に増加している。際限なく一般会計から繰出せる状況にはないため、今後は更なる費用削減、収入確保に努められたい。